

描画に表れたトラウマ

——通り魔殺人事件が児童に及ぼした影響——

森 田 裕 司*

I 問題と目的

1998年 A 県内において痛ましい通り魔殺人事件が発生した。被害者は下校途中の小学生6年生男子であった。われわれ臨床心理士は、学校関係者への心理的支援活動の一環として、児童が言葉では表現しにくい感情を安全な形で表出すること、児童の心理状態を把握することの2点を目的に、全児童を対象に S-HTP（統合型 HTP 法）による描画を1年間に計3回、継続的に実施した。

本論では事件が児童に及ぼした心理的影響が描画にどのように表されているかを検討した。また、影響を受けた児童にとっての描画表現の有用性についても考察した。

II 方 法

児童の心理状態を把握するために描画法が適当と考えられた。そのなかで適度な自由度をもつ S-HTP 法が選ばれた。さらに、情緒面を表現しやすいように彩色を取り入れ（森田，1989），また独自に描画後質問（PDI：Post Drawing Inquiry）の項目を定めた。

対象児：全校児童129名（6年生は卒業したため1回目のみ実施）。

実施日：1998年3月5日（木），7月10日（金），1999年2月10日（水）

実施者：担任教師6名，臨床心理士および臨床心理学専攻の大学院生などスタッフ4名。

材 料：A4の画用紙，HB鉛筆，24色の色鉛筆，消しゴム，PDI用紙。

* 広島経済大学経済学部助教授

手続き：図工の授業の一環として行なった。描画の教示は三上（1995）に従い、「家と木と人を入れて、何でも好きな絵を描いてください」とした。なお、描画の実施中は担任とスタッフが教室を巡回しながら観察を行なった。描画後は PDI を行なった。

Ⅲ 結 果

S-HTP の実施後、筆者を含む臨床心理士など合計 8 名が、それぞれの描画に事件の影響がみられるか否かを検討した。その際、それぞれの児童がもともとどのような S-HTP を描くのかは明らかではなかった。しかし、3 回連続して描かれた描画を比較・検討することにより、事件の影響の有無や、その児童本来の特徴などをかなりの程度明らかにしていくことができた。

1. S-HTP にみられた事件の影響の指標と分類

まず、1つ1つの描画について、構成要素の特徴にみられるサイン、構成・印象・色彩などの全体的特徴、表現されたテーマ（PDI）といった多角的な側面から繰り返し検討した。そして、まず事件の影響があるとみられる描画と影響がないとみられる描画を分けた。つぎに、影響があるとみられる描画を詳しく検討したところ、事件の影響は大きく2つのタイプに分けられることに気づいた。それらを、構成要素の特徴、全体的特徴、テーマの3側面から整理、記述したのが表1である。第1のタイプは、各側面を総合すると興奮、攻撃性、マニック、怒り、恐怖などという内容をもつタイプであり、第2のタイプは感情の抑止、静止、非現実感などという内容をもつタイプである。われわれは前者を「興奮」、後者を「麻痺」と名づけることにした。なお、「再現」というのは、事件現場に酷似した風景、事件の時刻を思わせるものなどという内容をもったタイプで、事件の発生により時間が静止したような場面が描かれているので、「麻痺」の亜型とした。（タイプ別の描画の典型例：省略）

2. 影響の有無の割合

分析は、評価の妥当性を高めるため、3回とも実施した95名の描画を対象とした。事件の影響のみられた描画の割合を各回ごとに示したのが図1である。1回目の40%が最も多く、その後時間経過とともに減少していった。タイプの内訳では、1回目には麻痺が多くみられたが、その後速やかに減少していった。一方、興奮は2回目でやや増加した。

つぎに、個人別にみた影響の有無を検討した。3回のうち1回でも描画に影響の

表1 S-HTP にみられた事件の影響の指標と分類

描 画 特 徴			特徴が表すもの (タイプの名称)	
構 成 要 素	全体的特徴	テ ー マ と 例		
家：燃える家，破壊される家 木：破壊される木，おばけ化 人：激しい感情を示す人，過活動的，正義の味方，傷つく人 付加物：怪獣，UFO，火，光線，包丁	興奮，混乱 赤色の多用 塗りの激しさ	侵入，侵略，攻撃，破壊 戦争，災害 正義と悪 傷つき 死の世界 恐怖，怒り，マニック 安全感の喪失	怪獣やUFOによる世界の破壊 火事，爆発，噴火 守ってくれる正義の味方 首をちぎられた人 天国，おばけ こわごわ玉に乗るピエロ 大洪水	興 奮
家：鍵の強調，定規の使用，寒色の家，虹色の家 木：枯れ木，傷ついた木，葉の喪失，葉や実の少なさ 人：骸骨，死体のような人，動かない人，茫然自失，棒人間 付加物：雪，包丁，ダイナマイト	使用範囲の偏り アイテムの萎縮 色彩の貧困化 黒の強調 不自然な色彩(メタリック，虹色など)	感情の抑止，静止 非現実感，存在の希薄化 寒冷化 守りの強調	動きのない人や世界 異次元の世界 季節が冬に，極寒の地 ドア，窓枠，鍵	麻 痺
付加物：時計		事件現場 焼きついた時間 昇天	二股の道と家並み 時計，夕焼け 立ちすくむ人とロケットで昇天する人	再 現

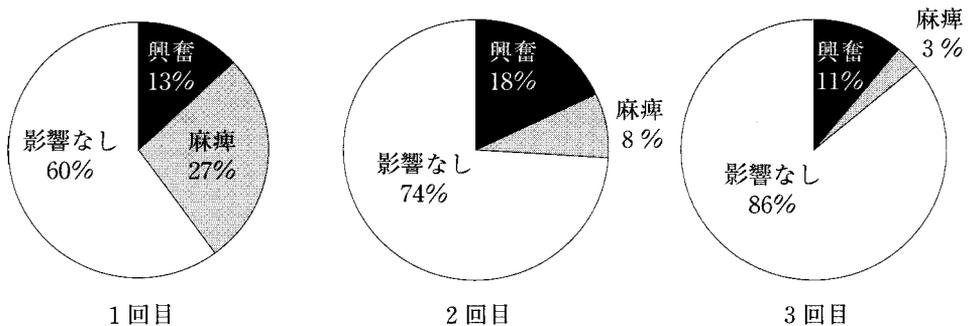


図1 各回ごとにみた事件の影響

みられた児童を「影響あり」とした。その結果、42%の生徒に影響がみられたことが明らかになった。

つづいて、影響のあった児童を男女別にみた。男子で影響のみられたのは60%であったのに対し、女子は21%であった。

3. 被害者に近い立場の児童の描画にみられた影響

被害の現場にいたり、被害者のきょうだいであったりと、被害者と近い立場の児童には、事件の影響がより強烈に表れており、それぞれの児童のそのときどきの心理状態をかなり克明にとらえることができた。(描画：省略)

IV 考 察

1. S-HTP にみられた事件の心理的影響について

S-HTP には事件による影響が予想以上に明瞭に表れていた。S-HTP に表されていた事件の主な影響とその特徴は、以下のとおりであった。

- 1) 影響みられると判断された S-HTP には、「興奮」と「麻痺」の2つのタイプがみられた。また「麻痺」の亜型として「再現」がみられた。
- 2) 影響がみられたのは1回目では40%で、その後時間の経過とともに減少した。
- 3) 影響は、男児の方に多くみられた。
- 4) 被害者と近い立場の児童には、影響がより強烈に表れた。
- 5) 「興奮」と「麻痺」(およびその亜型としての「再現」という2つのタイプは心的外傷後ストレス障害の特徴である「覚醒の持続的亢進」と「全般的な反応の麻痺」という二層性の反応、さらに外傷記憶の「侵入」といったことと対応するものであった。

2. 児童にとっての描画表現の有用性について

- 1) 児童にとって描画は感情表現の手段として適していた。感想には「楽しかった」「すっきりした」などの声が多かった。これより描画実施は治療的な効果もあったと考えられた。
- 2) S-HTP は適度の自由度をもち、とくに自己と外界との関係や、個人が関心をもっているテーマが表現できるという点で有効である。侵略、安全感の喪失、守りの強調、事件現場、昇天などといったテーマは S-HTP だからこそ表現できたものと考えられる。また自由画でないことも児童の安全感を高め、評価にあたって描画間の比較にも有効であった。
- 3) 継続実施により、個人の内的変化をとらえることができた。また、事件の影響とその児童本来のもともとの特徴との区別が容易になり、判断の妥当性を高めることができた。

文 献

- 三上直子 1995 S-HTP 法 —統合型 HTP 法による臨床的・発達のアプローチ— 誠信書房
- 森田裕司 1989 統合型 HTP 法における分裂病者の描画特徴 —全体的評価による因子分析— 心理臨床学研究 6 (2) 29-39.

付記：今回報告した研究は以下の論文が元になっている。

- 一丸藤太郎・倉永恭子・森田裕司・鈴木健一 2001 通り魔殺人事件が児童に及ぼした影響 —継続実施した S-HTP から— 心理臨床学研究 19 (4) 329-341.